



共済福祉社会だより

社会福祉法人 共済福祉会 発行責任者 石津博士
 住所 静岡県田方郡函南町平井717-2 TEL 055(978)4100
 ホームページ <http://kyosaifukushikai.jp/>
 e-mail: info@kyosaifukushikai.jp



謹賀新年



理事長
石津博士

皆様あけましておめでとうございます。本年も皆様にとって輝かしい年となりますよう祈念しつつ新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、地域の皆様はじめ関係各位の皆様のおかげをもちまして、利用者の皆様に安心・満足して頂けるサービス提供に努めることができ職員一同心より感謝申し上げます。

また昨年は、日本が誇る富士山が世界遺産に登録され、私どもの施設からもその雄姿が展望できますが、新年にあたりひときわ心洗われる思いで見ているところであります。一方、社会的には二〇二〇年のオリンピック・パラリンピックの招致が実現でき今後の景気向上や観光立国の充実など大いに期待されるところであります。合わせて、東日本大震災の復興はまだまだ道半ばであり、オリンピックの準備の陰に隠れることなく同時並行で少しでも早く復興できるように国民全体で取り組まなければならない課題と思いま

す。

さて、私たちの事業は、一昨年の介護保険制度および報酬改定の影響や地方でもデイサービスなど事業間競争が年々拡大傾向で、取り巻く環境は厳しさが増してきています。そのため昨年は、法人内に事業運営強化に向け、現状の事業運営体制や人材育成体系など諸制度全般にわたった検証と必要な見直しを行い、次年度以降の事業運営体制の一部見直しや諸制度の見直し強化を図り、利用者・家族の皆様により満足していただけるサービスの充実と経営基盤の強化を図っていくこととしています。

今後の超高齢化時代到来（わが国の七十五歳以上の人口割合は、現在十人に一人ですが、二〇三〇年には五人に一人、二〇五五年には四人に一人になると推計される）による介護需要の高まりにより、医療・介護事業者に寄せられる期待は一層大きなものがあると認識しています。それだけに、国の社会保障制度改革の動向および地方行政の取り組みなど注視しつつ社会福祉法人が担うべき公益性を発揮した事業運営を行っていくことが地域社会への貢献と決意も新たにしているところであります。

今後も、地域の皆様や関係各位の皆様と連携して、地域にあった包括ケア体制構築に知恵を出し合い取り組んでいくことが強く求められています。そのことを十分認識し努力していくことを申し上げ新年のご挨拶とします。

高齢者福祉部

二〇一四年
新年のご挨拶

高齢者福祉部長

宮本良美



お健やかに新年をお迎えのことと存じます。

今年一年平和で穏やかな年となりますようにご祈念いたします。

今年は冬季オリンピックが開催されます。これまでの四年間それぞれの競技種目において、各アスリートが切磋琢磨し、精進に精進を重ね、強い精神力と揺るぎない技術を擁し、代表の座を射止め世界のアスリートと競い合う年でありませう。

人間の精神力は人それぞれですが、その強さはどこから来るものでしょうか。きつ日々の鍛錬のたまものではないかと思えます。四年に一度のオリンピックの代表を目指し、用意周到な準備をする。

そして代表に選ばれるべく最高の力を発揮しその座を獲得する。その過程から得る事が出来る「自信」と「深い思考力」が大きな支えとなつていると思っています。

私たちは、アスリートの「ゆるぎない技術」に匹敵する「介護力」を高めるために、「気づき」のセンサーを働かせ、「この人のために」今自分がなすべき事は何か、を常に自問自答し、なすべき事がみつければそれを即実践する。それが自分自身の「介護力」を高める重要な一歩と考え行動しています。

私たちがアスリートと違うところは、晴れの舞台で技を披露するのではなく、いつも利用者の傍らで敬意を持って接し、利用者と相対した環境の中で最高のお手伝いをさせて頂く事です。

私たちが目指す質の高い「介護力」をさらに向上させるため、高齢者福祉部の各事業所職員は、利用者に学び利用者によく努力と精進を重ねてまいります。

皆様にとりましてより良い年でありませう職員一同心から願っています。

印象に残る言葉

伊豆白寿園

介護課長 増田久美子

昨年、満足度調査を実施し、

利用者お一人お一人から、じっくり話を伺う機会がありました。その時に印象に残った言葉をいくつかご紹介します。

「昔はこういう施設なんて想像できなかったし、まして自分がそこに入るなんてね。」

「歳をとればあんな感じが、と頭ではわかってはいたけど、老いて初めて老いがわかる。」

「どんな過去があろうと、こういう所に入ったら、みんなジジババなのよ。」

「年齢差、個人差は外からは見えない。だから会話がなければ個別ケアはできない。」

等、一人で聴くには勿体ない言葉の数々。

実際、対面してお話を伺っている、その人間力、懐の深さ、ユーモアなど改めて感服する事ばかりです。

「話を聞いてもらう機会は大事だよ。」という調査は続けてほしいよ。」という利用者の皆さんの思いや言葉を、職員みんなで共有し、新しい年

も進んでいきたいと思えます。

利用者とともに

伊豆白寿園

生活相談員 内田知子

昨年四月より、生活相談員として利用者やご家族と関わらせていただいています。ケアワーカーの時とは違った視線で、利用者やご家族との対応の中で多くのことを学びさせていただいています。

また、伊豆白寿園の年間行事に携わり、季節感を味わっていただけのような様々な企画をしています。年末には、もちつき、忘年会、年明けには、年始会、どんど焼きなど。それぞれの行事の中でも好評なのは、職員の寸劇で笑いの絶えない会となっております。

これからも利用者が楽しく潤いのある生活を送っていただけよう笑顔で支援させていただきます。



私のリフレッシュ法

ほほえみ居宅介護支援事業所
ケアマネジャー 三田優子



私は、手先が不器用でスポーツも得意でなく、これと言った夢中になれる趣味や特技がないのですが、本を読むことと、歩くことは好きで、細々ながら継続しています。

特に読書は、福祉関係の本のみでなく、自分と違う境遇に置かれている主人公の物語に触れて感激したり、時代小説などを読んで、自分が普段想像もできないような世界を疑似体験して、しばし現実を離れたりすることで、随分リフレッシュできていると感じています。

新年を迎えるにあたり、今まで読んだことのない様なジャンルの本にも挑戦して、自分のものの見方や考え方を広げていきたいし、何より楽しんでながら元気に笑顔で過ごせる一年にしたいと思えます。

障害者福祉部

新たに創出する力を
結果として

障害者福祉部長

原 聖

私が伊豆リハビリテーションセンターに着任をしてから早くも半年が経過しました。

当初は、障害者福祉事業の制度や障害者支援施設そのものの理解に乏しく、また、利用者の生活や支援内容についても分からないことがかりで、利用者に受け入れていただけなのか不安を抱えた日々でした。さらに、職員一人ひとりの業務役割や手順・取り組み方法は、従前からの施設として培われてきたものであり、私にとつては、まさに新天地にきた思いでした。

そんな戸惑いを抱えていた時に、利用者の朝礼・終礼時や歩行訓練、手作業などに取り組んでいる合間に利用者から声をかけていただき、「文化祭」「希望会」における利用者の表情を見て、ようやく施設の一員になれたような気がします。

一方で、施設に対する理解が進むと同時に事業の厳しさ

にも直面し、機能訓練事業における一年六ヶ月という短期間での地域移行支援の困難さや、利用要件などによる待機者不在に伴う事業継続の課題が明らかになりました。



ところで、私が中学校を卒業する時、学校長から「頭を使い、汗を流せ」という言葉をいただきました。中学生の時代とは、身体を動かして汗を流すことは容易なことであるが、勉強できる時間は貴重であり、新たな事に悩み、理解と知識を身につけていくために取り組むことの大切さを教えていただいたものです。

新しい年を迎えて、昨今の障害者福祉事業を取り巻く変化の著しい環境に則し、安定した事業継続をしていくために、職員一人ひとりがもつ経験知を活かしながら、サービスの質の向上を図る創出に汗を流し、努めていきたいと思えます。

「青空」

伊豆リハビリテーションセンター

利用者 武藤 末吉

私は青空が大好きだ。車椅子で空を見ているとほっとする

ときどき空が羨ましいと思うときがある

辛いとき悲しいとき泣くだけ泣いて

さっぱりとしているそして限りなく青く澄んだ空になる人間も空のようになれたら

どんなにいいだろう私も空のように

もっと素直になろう

自分のさみしさや辛さ、家族のことを思い出したときに、空を見て感じたことを綴った詩です。青空は、気持ちもほっとして和むので、私は青空が大好きです。



The・Xmas

伊豆ふれあいデイサービスセンター

ケアワーカー 武士 雅彦

昨年、最後のイベント『クリスマス会』を、十二月十三日に行いました。

十一月に入り、案内状の作成、フロアの飾り付け、席の配置など準備に追われ、あつという間に迎えた『クリスマス会』でした。当日は、松花堂弁当の豪華さに大満足した後、いよいよレクリエーションの始まりです。今年も、職員が考案した二種類のゲームで盛り上がりました。

着せ替えゲームでは、利用者家族の仮装に会場が大爆笑でした。又、職員の今と昔の写真を当てるマッチングゲームでは、職員の大変身ぶり?に、誰もが驚いていました。



楽しい時間はあっという間に過ぎてしまい、大盛況の『クリスマス会』になりました。今年もお楽しみに♪

安心できる 地域生活のために

相談支援事業所リベルテ

相談員 町田 亜矢

リベルテでは、今年度より、駿豆地区障がい者自立支援協議会の事務局業務を受諾しています。

本協議会は、三島市、裾野市、伊豆の国市、函南町、長泉町、清水町の広域に設置され、障がいのある方が安心して暮らせる地域づくりを目指して活動しています。全体会と一般報告会を主な活動とし、運営会議、市町部会と四つの専門部会による定期的な会議を開催し、新たに災害時障がい者支援部会の立ち上げ準備が進められ、今後の活動が期待されています。

今後関係者の方々に協力いただきながら、協議会の円滑な運営のサポートをしていきたいと思います。



福島で迎えたお正月

伊豆ライフケアホーム
施設長 佐々木省三

震災以来、年末年始に故郷の南相馬市に帰省することはありませんでした。理由は、原発事故で迂回する東北道や峠の雪道を運転するには不慣れな自分には危険だからです。今年は、雪がほとんど降らない大熊町や双葉町などを通行できる許可証があり帰省することになりました。実際には、二度の検問と身元確認、簡単な放射線量の測定がありましたが無事に通過することができました。事故のあった原発のすぐそばを通りますが、東北道を利用するよりも早く運転も楽でした。ただ、大熊町や双葉町はもちろんです、周辺の町に人の気配はなく自動車も数える程しか走っていませんでした。

両親は、南相馬市内の仮設住宅で暮らしていますがとても狭いので、帰省の時にはいつもホテルに宿泊します。実家では、大みそかの夜に、カレイの煮付けを食べるのが風習で、今年は、おいしく頂く

ことが出来ました。

元旦には、お雑煮を食べて神社の初詣に行き、たくさんのごちそうを祈願したその後は、実家の様子を見に行きました。津波で壊



れたままの家はそのままです。庭は、イノシシが穴を掘って荒らされてしまいました。周辺の様子も特段変わり無く、もうすぐ震災から三年が経ちますが、除染もままならず復旧する程遠いようでした。

津波や原発事故のために住めなくなった家や町から避難した多くの人が、どの様なお正月を迎えたことでしょうか。

家の近くにできた放射線量測定ポストが無くなる日はいつのことになるでしょうか？

少しでも復興に向けて進んでいると感じる新年であって欲しいと願ってやみません。



◆年男【年】年女◆

じえじえじえ

伊豆ライフケアホーム
ケアワーカー 杉山 朋子



共済福祉会に入社し、二度目の午年を迎えました。振り返るとあつという間... いろいろな事がありました。じやじや馬のように走ってきたように思います。

この年女を機会に、安心して利用者さんが乗ることのできる質の良い馬車になれるように頑張っていきたいと思えます。

新年を迎えて

ほほえみ居宅介護支援事業所
ケアマネジャー 大島 真純

私が生まれた年は戊午にあたり、世話好きで働き者が多いと言われるそうですが、その反面短気で飽きっぽい面もあるそうです。入社して早十五年が経とうとしています。ここまでがむしやりに若さで駆け抜けてきたような気がしま

すが、色々な意味で熟してきた年頃...。皆さまと共にゆつくりと確実に歩みを進め、「馬が合う」ケアマネジャーになれるよう、有意義な一年を送りたいと思います。

今年の抱負

伊豆白寿園
ケアワーカー 内田 清敬

伊豆白寿園に勤務して早いもので九年目となります。今まで続けて来られたのも利用者の優しさや励ましによるものだと感じています。



今年は年男。日々、利用者が不安なく安心して生活していただけるように気づきを多くし、職員としての専門性を高め、行動に移して馬のように天高く飛躍していけるよう、何事も諦めずに前向きに挑戦していきたいと思えます。

今年こそは...

伊豆ライフケアホーム
看護師 村松 啓子

施設で働き始めて四年目になります。病院と違った業務



内容や利用者対応にまだまだ戸惑う毎日を送っています。元氣だけが取柄の私なので、暴れ馬と言われるように、利用者の方々や職員への思いやりと感謝の気持ちを中心に持ちながら、お馬の親子のようにゆつくりと一年を送りたいと思います。

ご寄付
ありがとうございました

【寄贈品】

日産プリンス
静岡販売(株) 様
清水町
社会福祉協議会 様



◆編集後記◆

一面写真 富士山

(朝霧高原)

朝霧高原は、焼きそばで有名な富士宮市にあります。冬の富士山は、雪があつてきれいですが撮影場所は寒く、人もまばらでした。寒さは、これからが本番です。